

令和2年度（2020年度） 第1回 特別史跡熊本城跡保存活用委員会 主な意見

資料1

■日時 2020年7月21日（火）10:00～12:00

■場所 熊本市教育センター 4階大研修室

■出席者 伊東（龍）委員長・伊東（麗）委員・河島委員・永田委員・西嶋委員・服部委員・廣瀬委員・松田委員・毛利委員・山尾委員・山田委員 計11名
※今村委員、坂本委員は欠席

【前回委員会の主な意見について】

委員	委員意見	当日の回答	対応
毛利	熊本城周辺地域における高さ規制が緩和されている。建築指導課と連絡を取って、特別史跡熊本城跡周辺地域の建物の高さ制限について、指導をよくやっていただきたい。	熊本城の景観、城下町含めたお城の歴史、さまざまな観点から保存活用を進めていきたい。委員からいただいたご意見も含めて、市役所内の関係部署とも情報交換しながら進めていきたい。	委員のご意見を踏まえながら今後も、市役所内の関係課との情報共有に努めていく。

【報告】

1) 熊本城特別公開の実施状況について

委員	委員意見	当日の回答	対応
松田	来年春の特別公開第3弾の感染防止対策がより一層必要になる。観光戦略の方向を量より質へ転換してもらいたい。熊本城と周辺施設等との回遊性で消費額が増える。感染拡大防止策を講じた団体客受入れの方針を明確にしてほしい。	委託業者とともに運営方針を検討している。修学旅行など団体の方針も検討していきたいと思う。	資料2にて説明。回遊性を図るため、秋のお城まつりにて夜間公開を予定している。また特別公開第3弾以降は原則北ルートも公開する。さらに事前予約制を導入し、団体受入環境・体制を整備する。
服部	資料2の3ページ目、特別公開の④のルートで数メートル移動させると、宇土櫓を正面に見学できるのではないか。	石垣沿いのルートだが部材倉庫などがあり、安全の確認ができていないため入っていけない。 復旧状況に応じて随時変更する。	復旧工事の「見える化」については、その手法について検討していく。
西嶋	熊本城の「見てもらい方」について、市民対応と観光客対応のそれぞれを整備する必要がある。公的部門が特に遅れていたDXを熊本城で導入いただき、エビデンス、データに基づいた検討をしなければならない。文化財行政が進化していない。デジタルデータを文化財行政に活用し、取り組むことが求められている。	市民や観光客などいろいろな視点で取り組むべきことがある。データを得て活かしていく。	資料2にて説明。市民対応として、文化政策課と歴まち構想に基づく城下の活用方法を協議し、市民向け観光ルートの策定を検討している。

			観光客対応として、ARガイドアプリ、電子チケット、事前決済等の導入を予定している。
山田	特別公開について、市民や学校現場への働きかけが足りないと感じた。熊本城復旧を誰に見てもらいたいのか。地域の人たちにどういった公開になっているのか。第3弾のリニューアルする天守閣の展示内容はどうなるのか。また、わくわく座など他施設との展示内容の差別化はどのように図られていくのか。	教育委員会も同様に意識していて、副読本や調べ学習などの取り組みはある。しかし学校・学年単位で熊本城に来る機会は少ない。 展示は設計段階から施工へと移っている。基本コンセプトは、天守に焦点を置くこと、周辺施設と連携を図ること、実物の展示は行わない、など。	8月19日教育委員会と協議した。授業時数の不足もあり、学校単位での来城は困難とのこと。しかし情報提供は行なっていく。資料2にて説明。学校行事等での利用を促す。解説板等の更新・充実を行い、多様な観覧に対応していく。
河島	行幸坂の交互通行はできるのか。特別公開北口と南口の間の道は人が歩いて通行することは可能なのか。車の通行は現状どうなっているのか。加藤神社と行幸坂の間の車の通行はいつ頃可能になるのか。	行幸坂の城彩苑側歩道は下りのみ通行可能。堀側も安全対策が終われば歩行者の通行可能。一般車両については、安全対策の問題や、復旧工事が続くので、しばらく厳しい状況。	行幸坂の備前堀側の歩道については、法面安全対策の設計を進めている。スケジュール等が明らかとなった段階で説明させていただく。
廣瀬	県内の子どもの教育に熊本城の活用はとても良いことだと思う。熊本城調査研究センターのホームページ中に、「熊本城で自由研究！」というのを拝見した。子どもたちは、スタンプラリーとかも好きなので、そういうものを活用する。また、北ルートは休止中であるが、北ルートは魅力的なので早く公開してもらいたい。入園者の検温はどうしているのか。天守閣展示で波奈之丸の展示はどのようになるのか。多言語表記について、英訳すべき名称がローマ字表記になっている。内容・意味の記載をお願いしたい。	活用については事務局と委託業者とで検討する。北ルートの開放時期は決まっていない。入園の際、体調に関して記入いただいで確認している。検温に関する機械の配備や扱いについては、現在はやっていない。波奈之丸(国指定重要文化財細川家舟屋形)については、博物館へ移設・展示しており、天守閣での展示はなくなった。翻訳については、着手可能なところから更新をかけている。解説文については、熊本城総合事務所と熊本城調査研究センターとで連携しながら更新していく。	資料2にて説明。子ども向けイベント等の充実を図る。北ルートは、8月9日より公開を再開した。(日祝のみ) 解説板等については多言語化も含めた更新・充実を行う。
伊東(麗)	熊本市の出前講座に、「熊本城復旧」の講座があった。しかし皆さんが出前講座や特別見学通路のことを知らない。学校、PTAへ熊本市からお知らせしてもらいたい。小中学校のPTAの学年活動も子どもたちの教育につながる。		学校・PTA等への周知を図っていく。
毛利	一新小学校の子どもたちも、毎年熊本城域に連れて行き、熊本城総合事務所・熊本城調査研究センターの職員から、子どもたちに説明を頂いている。事前に相談すると協力いただける。今後の課題について、今年度のお城まつりの実施検討状況について教えていただきたい。		一新校区熊本城探検は10月11日に実施した。 秋のお城まつりは資料2にて説明。

永田	観光として熊本城をどう使うかという話にもなってくる。何もしなければ観光客の熊本城での滞在時間は短い。熊本城を子どもたちにどう開放できるか考えなければならない。近年人気があったのは、旧細川刑部邸の夜間開放・ライトアップである。		資料2にて説明。秋のお城まつりで熊本城夜間公開を実施。今年度も年末年始の特別公開を予定している。
----	--	--	--

2) 千葉城地区 (JT 跡地・NHK 跡地) について

委員	委員意見	当日の回答	対応
河島	NHK 跡地の利用方法について、近隣の県立美術館分館を利用して一帯となった整備をしてほしい。千葉城なので熊本の中世史を市民に知ってもらいたい。中世城が市の中心部に存在することは非常に珍しいこと。JT 跡地は高橋公園と一帯となった整備をお願いしたい。熊本には能楽堂が無いので、JT 跡地あたりならできるのではないか。県の伝統工芸館まで含めた一帯の開発で。伝統工芸館と県立美術館分館の間の場所に、出土品の保管倉庫があると聞いている。理想としてはスペースができれば、駐車場として整備してほしい。		資料3にて説明。遺構確認調査の成果を踏まえ、具体的に検討していく。
毛利	河島委員の意見に賛成。能楽堂を建設し、高橋公園一帯の整備計画をお願いしたい。整備案の検討には保存活用計画（地域計画）も入っているのか。保存活用計画（地域計画）については、別途委員会や会を開いて検討する機会があるのか。	JT 跡地・NHK 跡地を主体とした千葉城地区の整備案を検討するもの。	NHK も含めた整備計画は来年度以降も検討を進める中で、整備内容について意見徴取を行いながら、史跡整備としての可否等について判断していく。

3) 熊本城樹木管理について

委員	委員意見	当日の回答	対応
山尾	資料4の図2について。樹木の中・低木のフローも入れておいた方がいい。中・低木は伸びていくとどうするのか。本年度に樹木点検とあるが、管理者の点検か、専門業者の点検のことか。	フローに記載する 定期的に巡回する。今年度は5年に一度の定期点検である。	ご指摘の点は、フローに追記済。 なお、今回策定した「樹木点検のてびき」に基づき、現在、樹木点検を実施中である。樹木医（併せて街路樹診断士の資格も所有）に実施してもらっている。
毛利	藤崎台の大クスについて。県が管理しているが、県には任せられない、やる気がない。管理を市に移すのはどうか。市と県で管理のプロジェクトチームか専門部会を作れないのか。 また合同庁舎跡地のタイザンボクは引き続き残してもらいたい。	藤崎台の大クスについては県と協議していく。タイザンボクも適切に管理する。	8月20日に関係者間で意見交換を行なった。県からは「地元の意見を伺いながら適切に管理していく」という発言もあり、今後も協議が必要と認識している。

伊 東 (麗)	「熊本城樹木管理のてびき」を作成する際、実践的視点で作成した。てびきによる点検を実施して何か問題がでてきたら、協議を行ない良い方向に持っていきたい。出てきた課題は、適宜「てびき」に反映してほしい。		
廣瀬	加藤神社のイチョウの木について、市が管理するのは難しいのか。	加藤神社所有なので神社が管理している。古樹なので市も協力できればと思う。	確認したところ市管理地内樹木であった。かなり樹勢が衰えており、現在樹木診断を予定している。

4) 熊本城の復旧取組状況について

委員	委員意見	当日の回答	対応
服部	監物櫓の石垣解体について。石垣は全面解体なのか。石垣は一定の期間、測量等をするのか。	石垣全て解体ではない。最小の範囲で検討。定期的な計測はしている。変状範囲は小さい。	現在、設計を進めている。

5) 新型コロナウイルス感染症による熊本城関連業務への影響について

委員	委員意見	当日の回答	対応
	無し。		

その他（全体通して）

委員	委員意見	当日の回答	対応
西嶋	公開に関して、with コロナの状況下において相当な工夫が必要と思われる。歴史体験活用の議論が無い。そのための小委員会等の設置を要求しているが、実現していない。今後、公開・歴史体験を進めるのか検討いただきたい。来園者の混雑や密集を避けるために多様な見学ルートが必要。広域化、歴史的事実を踏まえ熊本城周辺も含めた土地利用・史跡整備が必要。市民や地域経済界が参加した、文化財 PFI 導入の検討をする時期かと思う。樹木だけではなく、管理のあり方も議論いただきたい。多様化と広域化を進める中で全体の統合をどのようにするのか、考え議論していきたいと思う。	公開は、復旧期間中の安全確保を前提で対応している。熊本城とその周辺とを合わせて取り組んでいく。 管理についても柔軟な対応をする。	活用・管理についての議論を行なっていく。
廣瀬	飯田丸埋没石垣はシートが被っていて見られない状況なのか。いつまで見ることができるのか。	埋没石垣は現在露出している。	行幸坂から観覧可能であり、ビューポイントに説明板を設置した。
河島	熊本城の管理事務所の設置場所は。	前回の委員会以降、具体的な進展は無い。引き続き検討する	今後検討していく。